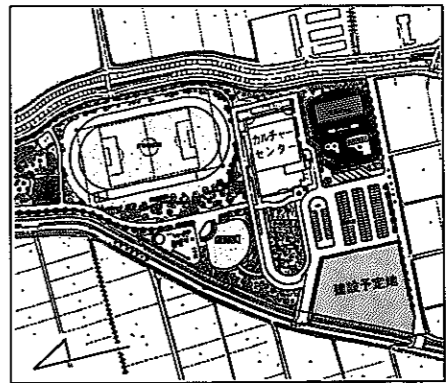


# (仮称)白根ふるさと村建設地決定

市が、ふるさと創生事業の一環として進めている(仮称)白根ふるさと村の建設場所が決まりました。建設場所は白根総合公園内で、カルチャーセンターへの入り口道路の南側です。建設場所が決定したことにより、市では今後早急に実施計画を作り、四年度から建設に着手。六年度の大夙合戦に間に合うようにオープンさせたい考えです。

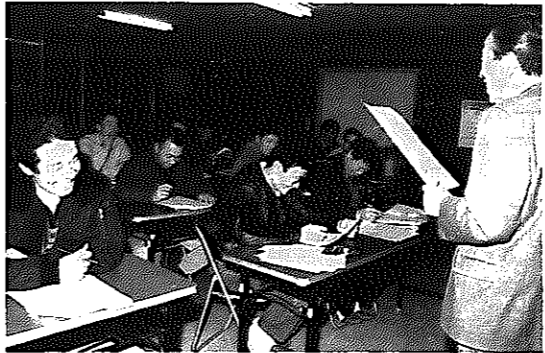
の基本計画を受け昨年九月六日には、建設計画検討委員会が検討結果を答申。答申では「建設地の早期決定と敷地規模の確保」「農業の情報発信機能も持つような運営面の配慮」「民俗資料館の展示・収蔵スペースの確保」などの要望が出されました。決定した建設場所は、市内外から年間延べ十二万人が利用するカルチャーセンターのすぐ隣で、相乗的に多くの人が来場してもらうことが期待できます。さらに大型バスにも対応した駐車場を、共有できるという利点もあります。市では(仮称)白根ふるさと村とカルチャーセンターが有機的に結び付き、それぞれの



目的が果たせるよう実施計画を作成し、市民の期待にこたえられる施設の建設を進めていく考えです。なお、建設場所は当初テニスコートの建設を予定していたため、今後は白根総合公園の全体計画の見直しが必要となります。

# 育て！プロの農業者

先端的農業経営塾



複式簿記の記帳を通じて農業経営を改善しようと、農業委員会が開いた先端的農業経営塾。今年度は第三期、三十人の塾生が修了しました。十二月十八日は最後の講義で、テーマは決算書の作り方。確定申告を間近に控え、講師の小林芳雄さん(県農業会議)の話にも熱がこもります。この塾は昭和六十一年に青申セミナーとして開かれ、平成二年から先端的農業経営塾と名称を変更しまし

た。厳しさを増す一方の農業情勢の中で農家が生き残るために、記帳と決算書の作成によって経営の点検をし、所得を確保することが塾の狙い。卒業生は既に百人を超え、修了後は市農業青色申告会に加入して研修を継続しています。農業委員会では「プロの農業者としての自覚と自信を持つて、農業経営に取り組んでほしい」と本市の農業を担う塾生たちの活躍に期待を寄せています。



十二月五日と六日、東北電力、消防署、福祉事務所の職員らが一人暮らしのお年寄りを訪問しました。これは火の用心や電気の使用を呼び掛けるために毎年行っているもので、今年度は百四十世帯を訪問。ふろこや台所、暖房器具などの安全確認や、漏電調査などを行いました。特に指導を受ける世帯はほとんどなく、火の元や電気の安全は大鼓判。しかしストーブの上で洗濯物を干していたり、タコ足配線をしている人が、一部に見られました。係員は「このことは火災に結び付きやすく、どの家庭でも気を付けてほしい」と注意を呼び掛けていました。

# コメは本市農業の生命線

コメ市場開放阻止大会

「コメ市場開放阻止白根市大会」が一月九日、カルチャーセンターで農家、農業関係者など約六百人が参加して開かれました。これは、市、農協などで組織する市農業振興協議会が主催したもの。ガット・ウルグアイ・ラウンド農業交渉で、ドンケル事務局長が「例外なき関税化」という最終合意案を示し、決断を迫っているという緊迫した情勢や、ブッシュ米大統領が米日中というタイミ

ングを捕らえ、コメ輸入自由化反対を産地からアピールするのが狙い。大会はまず滝沢市長があいさつに立ち「農家はコメ自給堅持のため、減反政策や価格の引き下げに協力してきた。今コメの市場開放をすれば農村社会は崩壊する。政府の見解も微妙に変化している。コメは本市農業の生命線であり、市場開放は断じて許してはならない」と決意を表明。続いて、細河白根市農業協同組合長、小笠原県議会議長などがコメ市場開放阻止を呼び掛けました。

さらに、生産者を代表して金内与夫さんと田村栄一さんが「米作農家がなぜ財界や自動車産業の犠牲にならなければならないのか。われわれ若者が体を張って白根市の農業を守って行かなければならない」「日本は世界一の農産物輸入国であるのに、コメまで外国に依存するのか。これ以上若い農業者を減らしてはいけない」とそれぞれ所信を表明。また、消費者を代表して高橋末江市連合婦人会長が「輸入米は安全性の面から大きな疑問がある」と輸入自由化による問題点を訴えました。

大会は最後にコメ市場開放阻止のアピールを満場の拍手で採択。アピールは、ブッシュ米大統領、宮沢総理大臣、田名部農林水産大臣に送付されました。



大会アピールを読み上げる高木フサ子さん

●コメ市場開放阻止白根市大会アピール(要旨)

わが国の農業は、先進国に例のない低い自給率の下で、大幅なコメの生産調整を強いられながらも、コスト低減に懸命な努力を続けています。しかし、ガット農業交渉で示された最終合意案では、最も恐れていた「例外なき関税化」が打ち出され、各国の政治決断が迫られております。今後、ガットの農業交渉において、

コメの市場開放で譲歩すれば、いざい完全自由化に追い込まれるのは確実です。日本の主食さえも海外に依存することは極めて危険です。私たちは、農業・農村に壊滅的な打撃を与えるコメ市場開放を、断じて受け入れることはできません。私たち白根市民は、政府があくまでもコメの自給方針を堅持することを強く要求するとともに、コメの市場開放絶対阻止を、こゝ白根市から広くアピールするものです。

平成四年一月九日  
コメ市場開放阻止白根市大会

# 予防消防の徹底を誓う

白根地区消防署と市消防団合同の消防出初め式が、一月六日行われました。式典に先立ち分列行進が行われ、消防署員、団員が本町通りを行進。市長、消防団長らの観閲を受けました。産業厚生会館で行われた式典で、滝沢市長は「三年の火災発生状況は二年に比べ五件減少している。消防団員の確保など困難な問題がある中、関係者の努力によるものと評価している。今年には県総合防災訓練を本市で行うことになっているので、地域住民の期待にこたえるよう、さらに努力を続けていただきたい」とあいさつし、予防消防の徹底を誓いました。

